

日韓両国学生の初対面場面における話題の推移

青柳にし紀
信州大学大学院人文科学研究科

1. はじめに

2000年3月6日から2000年3月9日までの間、沖ゼミ（信州大学人文学部日本語教育学沖裕子研究室）は3泊4日の「韓国研修旅行」^{註1}を実施した。

参加学生は、信州大学側が日本人女子学生10名（大学院2年1名、学部4年5名・3年1名・2年3名）と韓国人男子留学生1名（学部3年）、カトリック大学校側は韓国人女子学生11名（学部3年10名・2年1名）。

カトリック大学校生の同行を得たのは、研修旅行初日から3日間。1日目は、ソウル空港からホテルへの地下鉄移動約1時間とホテルでの歓迎会約1時間。2日目は、車による移動往復約3時間を含めた独立記念館見学、夕食。3日目は、カトリック大学校見学と構内の研修室を借りての独立記念館見学後の討論会。その後、夕食、カラオケ、東大門見学（買い物）のために、3日目の交流は深夜2時まで続いた。

本論では、両国学生が研修旅行中に交わしたコミュニケーションと、そこに包括された話題群に注目し、その話題群が3日間という時間的経過の中でどのような推移相を見せるかを明らかにすることを目的とする。

両国学生が取り上げた話題群の日程別調査をアンケートで行った。その結果、研修旅行中におけるコミュニケーションの推移には3つの様相が見られることが考察できた。

2. 意識調査の概要

「日韓交流前後における日本語教育学専攻学生の意識調査」の概要を以下に記す。

- (1) 目的：「韓国研修旅行」参加者の意識変容と話題推移とを明らかにするため
- (2) 期間：2000年3月20日～2000年3月27日の8日間
- (3) 被調査者：論者を除いた信州大学日本語教育学専攻日本人学生9名
- (4) 方法：アンケート方式の調査票配布

- (5) 調査内容：「調査対象者の過去の旅行体験」、「韓国研修旅行全体について」、「調査対象者の旅行前後の意識変容の有無（ここでは記述式による）」

「韓国研修旅行全体について」は話題の推移を追究するために設けたもので、カトリック大学校生との交流に関して 10 項目の質問をした。そのうち、中心設問である以下に記す 4 項目、すなわち「(1) 1 日目<電車内>」「(2) 1 日目<歓迎会>」「(3) 2 日目」「(4) 3 日目」の回答を話題推移に関する研究対象とした。

- (1) カトリック大学校生とはじめて乗った電車では、どのような話をしましたか。
(選択式/選択肢 29)
このうち、印象の強い話題に関してあなたの感想を教えてください。
(記述式)
- (2) 1 日目の飲み会では、どのような話をしましたか。
(選択式/選択肢 29)
このうち、印象の強い話題に関してあなたの感想を教えてください。
(記述式)
- (3) バスの中など 2 日目の行程中、どのような話をしましたか。
(選択式/選択肢 29)
このうち、印象の強い話題に関してあなたの感想を教えてください。
(記述式)
- (4) 3 日目の行程中、どのような話をしましたか。(選択肢式/選択肢 29)
このうち、印象の強い話題に関してあなたの感想を教えてください。
(記述式)

質問の残り 6 項目の内容は、以下のとおりである。これら 6 項目に対する回答は、研究対象とした 4 項目の補足として考察する。

- ・ 日本人のカトリック大学校生に対する初対面の印象
- ・ 両国学生の最終行動である「東大門見学（買いもの）」での購入物と購入の仕方
- ・ 話題がなくなったときの対処の仕方
- ・ 会話補助に日本人学生が使った小物
- ・ カトリック大学校生と日本人同士の会話との違いについて
- ・ 最も印象的だった点

以下に、(1)～(4)の質問中に論者があらかじめ設定した 29 個の選択肢、すな 以下に、(1)～(4)の質問中に論者があらかじめ設定した 29 個の選択肢、すなわち両国学生間のコミュニケーションで取り上げられた話題項目を記す。

選択肢 29 個に関しては、複数回答を認めた。論者自身、この旅行に参加し、カトリック大学校生との交流に加わっていたため、その間に出た話題項目には遺漏なきよう努めた。なお、参加学生のほぼ全員が女性である。

- | | |
|--|---------------|
| 1) 名前、年齢 | 1 2) 映画 |
| 2) 出身地 | 1 3) テレビ番組 |
| 3) 住所、E-mail | 1 4) 恋人 |
| 4) 時候の挨拶 (いい天気だね
～、寒いね～など) | 1 5) 両親 |
| 5) 目に付いたもの、食べたもの、共有することについての感想 (きれいだね～、おいしいね～、疲れたね～など) | 1 6) アルバイト |
| 6) 目に付いたものについての説明を求める
(あれは何? など) | 1 7) クラブ活動 |
| 7) 相手の服装 (かわいい、どこで買ったの? など) | 1 8) 学校 |
| 8) 化粧、化粧品 | 1 9) 先生 |
| 9) 携帯電話 | 2 0) 勉強 |
| 1 0) プリクラ | 2 1) 自動車の免許 |
| 1 1) 芸能人 | 2 2) 酒、たばこ |
| | 2 3) 好きな食べもの |
| | 2 4) 韓国のお土産 |
| | 2 5) 日本の紹介 |
| | 2 6) 日韓の国交問題 |
| | 2 7) 日韓の政治 |
| | 2 8) Y 2 K 問題 |
| | 2 9) 日韓の教育制度 |

これらの選択肢を、次の 9 分類に下位分類する。

- ① 「自己紹介」・・・選択肢 1) ～ 3)
- ② 「その場で共有できる感想 (共有感覚)」・・・選択肢 4) ～ 6)
- ③ 「流行」・・・選択肢 7) ～ 10)
- ④ 「好み」・・・選択肢 11) ～ 13)、23)
- ⑤ 「個人環境」・・・選択肢 14) ～ 16)
- ⑥ 「学校生活」・・・選択肢 17) ～ 20)
- ⑦ 「資格・年齢制限 (資格制限)」・・・選択肢 21) ～ 22)
- ⑧ 「旅行」・・・選択肢 24) ～ 25)
- ⑨ 「時事」・・・選択肢 26) ～ 29)

29 個の選択肢から外れる話題については、「30) その他」として、回答者に任意の

追加を求めた。その結果、「徴兵制度」「ハンボック（韓服）」「交通」「韓国の歌」などが挙げられたが、いずれも少数であった。

3. 調査結果

被調査者9名による回答の分析結果の全貌を表1にまとめる。

表1では、4回の交流機会（あるいは日程別）において、それぞれ29個の話題選択肢がどの学生によって取り上げられたかを集計、被調査者の記号A～I^{注2}を示した。話題を取り上げた学生の多少がわかるように、5人以上が取り上げた話題の該当枠には「網掛け」をし、1人も取り上げなかった話題の該当枠には「—」を記した。

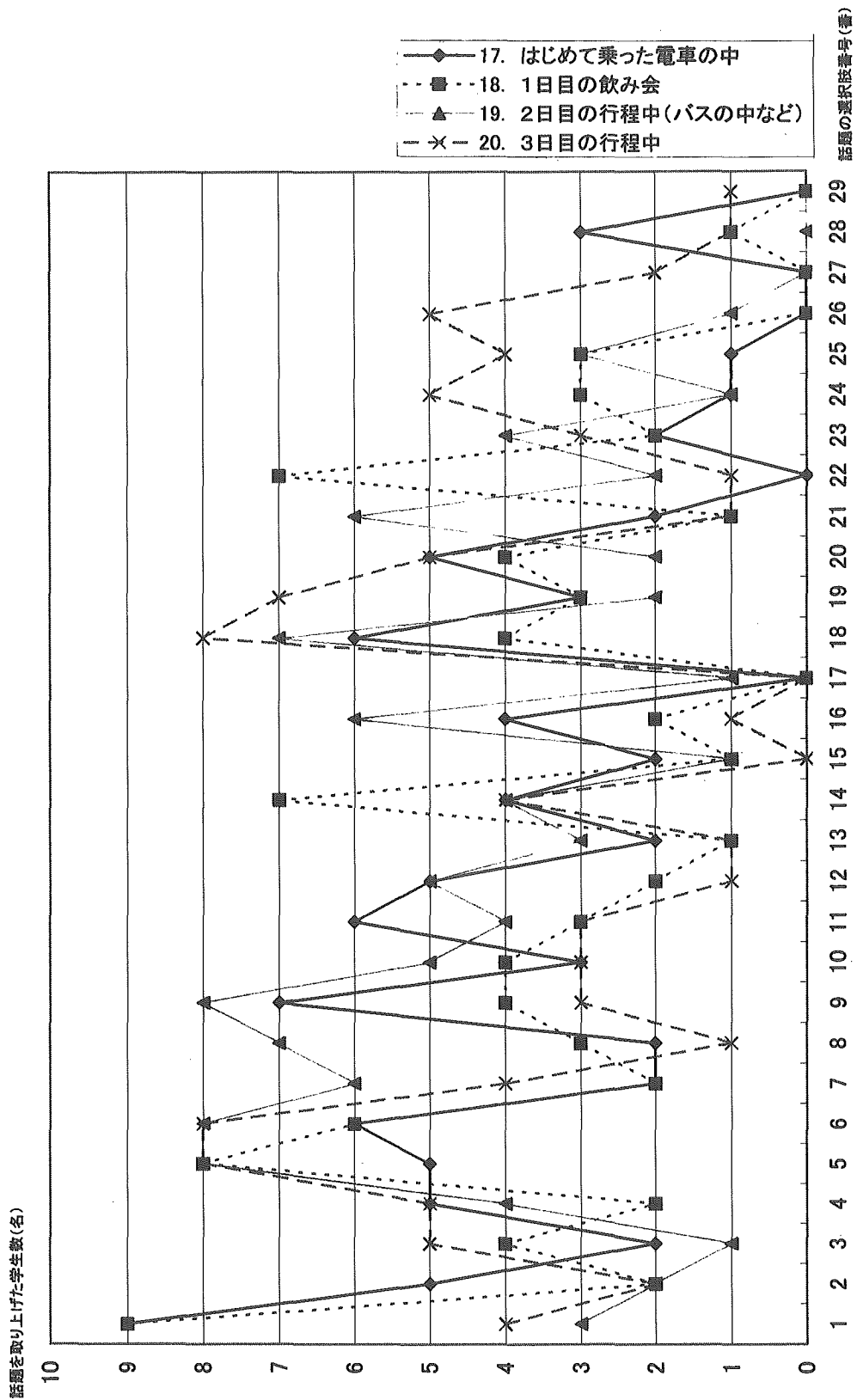
表1と併せて、4回の交流機会（あるいは日程別）において、それぞれ29個の選択肢がどれだけの学生に取り上げられたか、その学生数を折れ線グラフで示し、日程別の比較を試みた。（グラフ1）

縦軸は話題を取り上げた学生数を、横軸は話題の選択肢（番号で示す）を表す。

表 1. 日本人学生の取り上げた話題<日程別>

話題		交流機会			
		1日目<電車内>	1日目<歓迎会>	2日目	3日目
自己紹介	1) 名前、年齢	ABCDEFGHI(9)	ABCDEFGHI(9)	CDE(3)	ACDE(4)
	2) 出身地	ACFGH(5)	AE(2)	CE(2)	AE(2)
	3) 住所、E-mail	CD(2)	CFHI(4)	A(1)	ABCDE(5)
共有感覚	4) 時侯の挨拶	ABCFI(5)	AD(2)	ABEI(4)	ABDGI(5)
	5) 目に<感想>	ACDFI(5)	ABCDEFGHI(8)	ABCDEFGHI(8)	ABCDEFGHI(8)
	6) 目に<説明>	ACLTGI(6)	ACEFGI(6)	ABCEFGHI(8)	ACDEFGHI(8)
流行	7) 相手の服装	DE(2)	AE(2)	CDEFGI(6)	DFHI(4)
	8) 化粧、化粧品	CG(2)	BDG(3)	BCDEGHI(7)	C(1)
	9) 携帯電話	ABCDGHI(7)	ABCE(4)	ACDEFGHI(8)	ACD(3)
	10) プリクラ	DGH(3)	BCEG(4)	CDFGH(5)	ACH(3)
好み	11) 好きな芸能人	ABCDGH(6)	ABE(3)	ACDH(4)	ACH(3)
	12) 好きな映画	ABDGH(5)	BE(2)	ACEFG(5)	A(1)
	13) テレビ番組	BG(2)	E(1)	DEG(3)	E(1)
	23) 好きな食べ物	FG(2)	EG(2)	ACGI(4)	ACE(3)
個人環境	14) 恋人	BCDI(4)	ABDEFGI(7)	ACGI(4)	ACDI(4)
	15) 両親	EG(2)	C(1)	B(1)	—
	16) アルバイト	CEFG(4)	CE(2)	BCEFGH(6)	E(1)
学校生活	17) クラブ活動	—	—	I(1)	—
	18) 学校	ABCDEG(6)	ACGI(4)	ABCDEGI(7)	ABCDEFGH(8)
	19) 学校の先生	ABE(3)	ACE(3)	DE(2)	ACDEFGI(7)
	20) 勉強	ABCFG(5)	ACGI(4)	AI(2)	ACDGI(5)
資格制限	21) 自動車の免許	EG(2)	C(1)	ABCEHI(6)	E(1)
	22) お酒、たばこ	—	ABCEGHI(7)	CF(2)	C(1)
旅行	24) 韓国のお土産	I(1)	EGI(3)	I(1)	CDEGH(5)
	25) 日本の紹介	I(1)	CHI(3)	ABI(3)	ACDE(4)
時事	26) 日韓国交問題	—	—	G(1)	ABCHI(5)
	27) 日韓の政治	—	—	—	AC(2)
	28) Y2K 問題	CDG(3)	C(1)	—	G(1)
	29) 日韓教育制度	—	—	—	C(1)

グラフ1. 話題の日程別比較



4. 話題推移

表1では、研修旅行中の3日間を通して、それぞれの学生がどんな話題を取り上げていたかをまとめた。ここで見る限り、コミュニケーションの推移にはいくつかの様相があることに気づく。一般に、推移とは時間とともに状況が変化していくことを指すと思われるが、ここでは、それに拘泥せず、柔軟に推移の様相を考察してみたいと思う。

まず、第1のタイプは、一般的な推移の定義通り、時間の経過とともに話題が筋道を追いながら状況に従って変化していくというもの。第2のタイプは、時間の経過とは関係なく推移するもので、周囲の状況や目に付く物に支配されて突発的に変わるもの、すなわち話題の脈絡に連続性を持たないもの。第3のタイプは、社交上避けて通れない挨拶直後や別れに先立つ状況に付随した話題、これは自己紹介など定型的な性格が強いもの——に大別されるとみる。

本論では、これを次のように整理し、型式化を試みる。

第1のタイプ—心理的推移型

第2のタイプ—物理的推移型

第3のタイプ—必然的推移型

この分類方法を通して被調査者の回答を見たとき、心理的推移型には「流行」「好み」「時事」の分野が属し、物理的推移型には「その場で共有できる感覚」「個人環境」「学校生活」「資格」の分野があり、また必然的推移の型には「自己紹介」「旅行」などがそれに当たることがわかった。

次にそれぞれの型の詳細を見る。

4.1. 心理的推移型

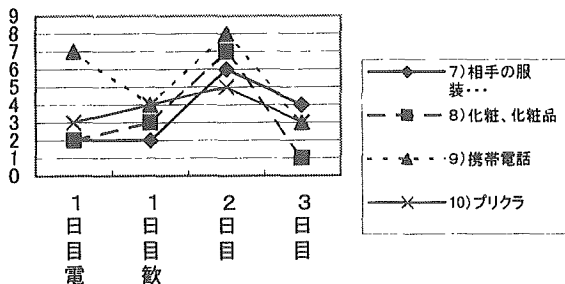
ここでは、時間の経過とともに両国学生の心理状況が変化するのに従って、「流行」「好み」「時事」がどのように推移するかを見る。

4.1.1. 「流行」「好み」の推移

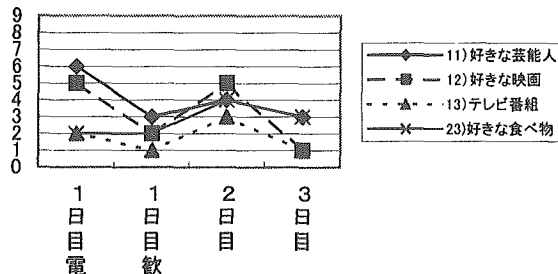
「流行」「好み」の両分野は、1日目<電車内>と2日目とに多く取り上げられている。1日目<電車内>では「好み」が多く、2日目は「流行」が多い。(グラフ2、3)これは初対面直後の電車内で「好み」について触れ、話題のきっかけをつかみ、親密さが深まった2日目には、「好み」が発展して、「流行」へと話題が盛り上がっていったと受け取れる。両分野については、質問項目を設定する際、1つの分野とすべきか

どうか迷った経緯があったが、結果的には同一線上にあったと解釈したい。

グラフ2 「流行」の推移



グラフ3. 「好み」の推移



「好み」について 11) 好きな芸能人、12) 好きな映画、13) テレビ番組、は、自己紹介を補う意味もあるのだろうか、初対面直後の空港からカトリック大学校生が積極的に話題にしている。例えば、「日本のドラマ知っています (A)」「韓国の学生さんが日本の映画やドラマ、芸能人などで興味ある人を教えてくれたので、その人のことについて盛り上がった (B)」ほか、「『キムタクのファンです。』と日本の芸能人について話してくれて (C)」「日本の芸能人、芸能界に対して、強い興味を持っていてくれた (D)」「韓国映画『シュリ』について (G)」など。「好み」を通して、両国学生は、お互いにどのような話題に興味があるのか、知ることができた。

「流行」は、前述のとおり、1日目より2日目の方が多し。親密さが増し、「好み」を超えて、客観的な関心事といえる「流行」にまで発展したと見られるが、7) 服装、8) 化粧、化粧品、10) プリクラ、などが集中的に取り上げられている。「手帳にファッション誌の切り抜きが貼ってあり (C)」、「韓国の学生さんがみな手帳に凝っていて、写真や切手やカード等いろんなものを挟んだりしている (E)」「雑誌や手帳を題材にしながら、両国学生の興味のあることを自由に話していたと考えられる。3日目は一転して「流行」の話題が減少する。3日目は「記念館見学後の討論会」「日韓学生親睦会」「日本語授業見学」「カラオケ」「東大門見学」など多くの行事が組まれており、また、両国学生の交流最終日であったことから、「流行」を話題にする時間も心の余裕も少なかったことが原因として考えられる。加えて、「流行」分野の話題への興味が薄れたことなども一因として挙げられよう。

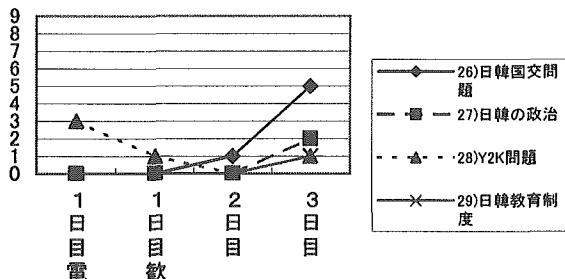
4.1.2. 「時事」の推移

心理的推移を見せた話題のもう1つは「時事」の分野である。

「時事」は1～2日目を通して、両国学生がほとんど取り上げなかった分野である。2000年問題として先進国で騒がれ、記憶に新しいためであろうか、28) Y2K 問題、が、例外的に、1日目<電車内>で3名、1日目<歓迎会>で1名の話題に上ってい

る。半面、堅い話題である 26) 日韓国交問題、27) 日韓の政治、29) 日韓教育制度、を取り上げた学生はほぼ皆無といってよく、わずかに「独立記念館見学」を行った 2 日目に 1 名が 26) 日韓国交問題、を話題にしたのみであった。(グラフ 4)

グラフ4. 「時事」の推移



ところが、3日目になって「時事」が話題にされた。この日は「カトリック大学校見学」「記念館見学後の討論会」があり、もともと話題になる要因はあった。しかし、「独立記念館に関する討論で(A)」などの回答に見られるように、26) 日韓国交問題、が3日目の話題に上ったと回答した学生の多くが、実は討論会自体を話題に取り上げたとしているので、間接的に話題としている点は注意すべきだとしても、討論会ではなく「26)～29) は、討論会の前後のみ(話題として取り上げた)(C)」という回答もあった点を重視したい。意識調査で「自分の中で日韓の歴史について理解を深めようとは思いますが、特別に表には出さないようにしたい(C)」「歴史や政治についてはよっぽど仲の良い人でないと話せないし、話すべきではないと思う(E)」などの回答を得たことから、「時事」分野に対する学生の抵抗意識が高いことがわかる。3日目になってようやく「時事」の話題に触れる学生が出てきたのは、両国学生が1日目、2日目に、「流行」の話題をはじめとした多くのコミュニケーションを交わすことによって、信頼感を築いた結果であるとも考えられよう。

4.2. 物理的推移型

概して、話題の推移が周囲の状況に影響されることは常に体験される場所である。それが旅行という日常生活を超えた状況の中ではより顕著に表出されることは否定できない。本項では、そうした状況として1つは「場所」、もう1つは「その場で共有できる物(目に付く物)」を取り上げ、話題の推移を考察したい。

4.2.1. 場所に関する推移

まず、「場所」の例として、1日目<歓迎会>という場と 14) 恋人、22) お酒、たばこ、との関わりについて述べる。歓迎会の席上には酒類も出された。これらの2項

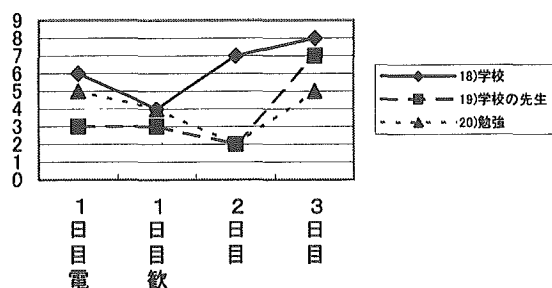
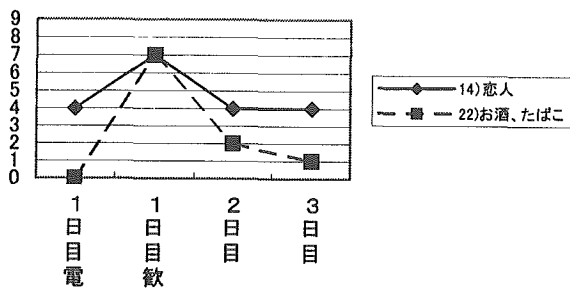
目の話題について、それぞれ7名が話題として取り上げている。まず、「恋人」では「恋人の話聞いたとき、韓国の男性は軍隊へ行かなければならぬため (A)」「恋人の話から韓国の軍役制度の話になった (B)」「恋人が軍隊に行っているという話題 (D)」と回答。次に「酒、たばこ」については「特にお互いに持ち寄った食べものや飲みもののことに話が集中した (G)」「韓国のお酒の説明。百歳酒は高いお酒なので (H)」「お酒について。百歳酒という韓国のお酒が日本人の私たちにも人気だった (I)」などの回答が見られる。歓迎会は、ホテルの3部屋に両国学生が6名～8名ずつ分散して行った。他の3つの交流機会では、韓国人学生と日本人学生とが1対1または1対2、2対1のかたちでの会話が多かったのに対し、ここでは6名～8名が同じ話題に参加した。その結果、被調査者 ABDE、FGHI は相部屋であったことから、話題についての印象が同じで、回答が重なったと見られる。(グラフ5)

同様のことは、「カトリック大学校見学」という場と「学校生活」との関わりについても指摘できる。18) 学校、19) 学校の先生、20) 勉強、は、3日目にそれぞれ、8名、7名、5名が話題にとり上げている。特に18) 学校、19) 学校の先生、がそれぞれ8名、7名と高い数字を見せているのは、この日、日本人学生がはじめてカトリック大学校の先生に会ったことや、職員食堂で昼食を取ったことなどから、話題に影響したと推測できる。(グラフ6)

場所が話題に影響したと見られる事例を2つあげたが、中でも1日目<歓迎会>の場合、これは周囲の状況が話題に影響した顕著な例であることを強調したい。というのは、ホテルの部屋は周囲に話題となるものが少ない、いわば遮断された空間である。このため宴会に特有な話題に集中したと考えられる。

グラフ5. 14) 恋人、22) お酒、たばこの推移

グラフ6. 「学校生活」の推移



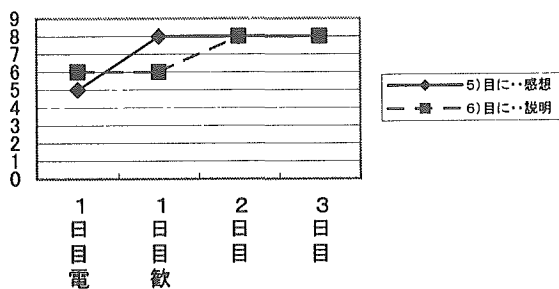
4.2.2. 「その場で共有できる感想(目に付く物)」の推移

「その場で共有できる感想」に影響されて話題が推移する場合について述べる。回答によると、5) 目に付いたものの感想、6) 目に付いたものの説明を求め、は4回の交流を通じて最も多く取り上げられ、日程別に見ても推移は少なかった。(グラフ7) 意識調査「話題がなくなったとき、どのようにして話題を作りましたか」という質問で2名が「目に付いたものの説明を求めたり (C)」「目に留まったものを日本の物と比較して (H)」と述べているように、「目に付いた物」は会話の契機となりやすい。「目に付くもの」の顕著な例は、21) 自動車の免許、を所有するかであるが、これは2日目に6名の学生が取り上げている。この日は、独立記念館への往復約3時間の車移動があり、車中で運転手の運転が目につく状況であった。(グラフ8)

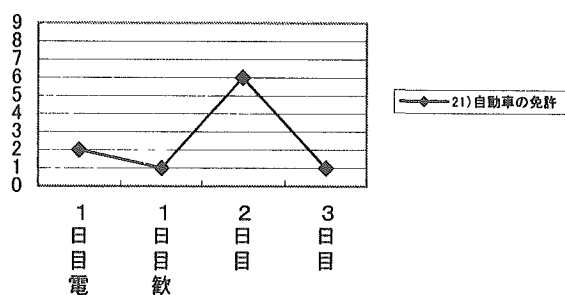
また、「流行」分野に属しているものの、見方によれば「その場で共有できる感想」の分野としても捕捉できる9) 携帯電話、についてであるが、「携帯のカバー (ぬいぐるみで携帯を覆う式のもの) を見て驚いた (E)」や「私の持っていたケータイ (iモード) を見せてあげたら、すごく喜んでいた (I)」など、やはり車中で取り上げられた例が見られる。

さらに、「(電車の広告を見て) 3月7日の新聞が3月6日に出ることに驚き、(韓国では) 新聞の日付が翌日になっている (F)」という説明を受けたり、教会のランプを見て「あれは何？」と聞くなど、目に付いたものに説明を求める場合があったことを回答は示している。

グラフ7. 「その場で共有できる感想」の推移



グラフ8. 21) 自動車の免許の推移



4.3. 必然的推移型

これまで、コミュニケーションの推移について、心理的推移、物理的推移のあることを見てきた。しかし、推移の仕方について上記2つの分類では括りきれないものがあると思われる。話題の分野としては広いとは言えないが、社交上欠かすことが出来ない、儀礼的な話題である。初対面同士が交わす自己紹介や、反対に別れに至るまでにお互いの今後について安堵感を与え合い、無事を祈り合うといった話の交換である。社交上の挨拶前後の、例えば、初対面では挨拶の直後に、別れの時には挨拶の直前に

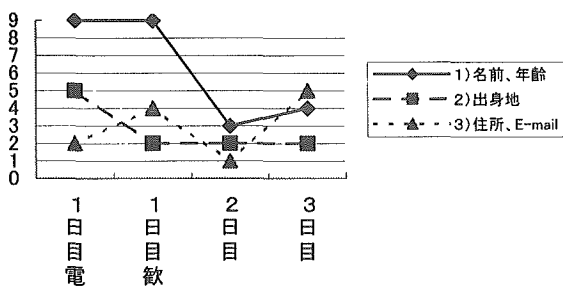
交わされるもので、これは挨拶について必然の話題と考えて良いだろう。

1日目、日本人学生は韓国人学生がどのような話題を好むか知らず、自己紹介や社交上無難な一般的な話題を取り上げようとした。これも必然的な推移の1つである。概して、初対面時の儀礼的な話題には、1) 名前、年齢、2) 出身地、などを挙げることができようが、事実、「地下鉄の中で自己紹介などをしました (C)」、「お互いの名前をまず言い (B)」、「何年生か (H)」など自己紹介をしたとする回答があった。これらは、初対面の相手を理解するうえで必要な情報を得るためのもので、1日目<電車内>に最も多く、日程を追うごとに取り上げられなくなるのが特徴的である。(グラフ9)

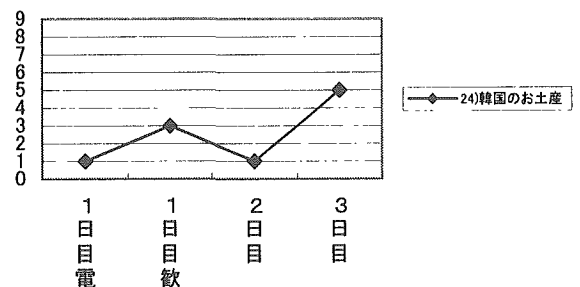
反対に、3) 住所、E-mail、は、1) 名前、年齢、2) 出身地、と異なり、別れを前にした3日目に最も多い。日本人学生の帰国を翌日に控え、「お互いに住所の交換をしようとした (A)」など、相手の連絡先、連絡方法を尋ねる目的で話題に上ったと考えられる。

「旅行」分野ではあるが、24) 韓国のお土産、も3) 住所、E-mail、と類似した推移相を見せる。研修旅行中、「私に何かお土産をと屋台とかでお金を出そうとしてくれた、熱心に。(D)」と韓国人学生が日本人学生のお土産を気遣ったり、日本人学生も「何をお土産に買うのがいいか」と韓国人学生に聞くなどの会話が見られた。どちらも、日本人学生の帰国を控えて取り上げられた会話であり、24) 韓国のお土産、も必然的推移といえないこともない。

グラフ9. 「自己紹介」の推移



グラフ10. 「旅行」24) 韓国のお土産の推移



5. まとめ —今後の展望と課題

「韓国研修旅行」に参加した日韓両国学生の初対面以降3日間におけるコミュニケーションの推移について述べてきた。

調査の結果、会話での話題群の推移には、3つの様相があると考察できた。すなわち、時間の経過とともに筋道を追いながら推移していく話題、時間の経過とは関係なく、突発的に推移する話題、そして、挨拶などに関連して推移する話題の3種である。

また、話題群に限れば、両国学生の興味は同じところにあるとまでは分析できたが、日本人学生同士における話題の推移と今回調べた両国学生間の話題の推移とを比較するには及ばなかった。おそらく、同世代に属する若者同士、話題群そのものの一致だけでなく、初対面以降における話題の推移の仕方も、両国学生間の場合と同じ結果が得られるのではないかと推測する。結果を得るためには、日本人学生同士についても意識変容調査を行うべきであろうが、この点は今後の課題としたい。

話題とは個人の関心や興味が大きく反映されるなど、個人差が生じるものであることはいままでもない。本論は日韓の女子学生の例であったが、男子学生、主婦、会社員などさまざまな場合で話題の種類、推移の仕方は異なると予想できる。

さらに、今回の場合のように初対面以降3日間のコミュニケーションの推移についてのみならず、歳月の経過した場合、親密度を増している間柄の場合にはどうであるのかについても機会があれば取り組みたい。

【注】

注¹ 旅行の詳細は青柳（2000a）「日韓交流前後における日本語教育学専攻学生の意識変容」参照。

注² 本論中のアルファベット大文字は、「日韓交流前後における日本語教育学専攻学生の意識調査」における被調査者を示す。性別、所属、学年、出身は以下のとおり。

	性別	所属	学年	出身
調査対象者A	女性	人文学部日本語教育学	4年	神奈川県逗子市
調査対象者B	女性	人文学部日本語教育学	4年	埼玉県大宮市
調査対象者C	女性	人文学部日本語教育学	4年	新潟県南蒲原郡
調査対象者D	女性	人文学部日本語教育学	4年	山口県長門市
調査対象者E	女性	人文学部日本語教育学	4年	京都府京都市
調査対象者F	女性	人文学部日本語教育学	3年	石川県珠洲郡
調査対象者G	女性	人文学部日本語教育学	2年	東京都八王子市
調査対象者H	女性	人文学部日本語教育学	2年	沖縄県豊見城村
調査対象者I	女性	人文学部日本語教育学	2年	新潟県北蒲原郡

【参考文献】

- 小宮修太郎、長能宏子、平形裕紀子（1998）「日本人の会話とその教育に関する意識調査—中国人・韓国人・台湾人の回答結果を中心に—」筑波大学留学生センター日本語教育学論集 第13号
- 加藤翹子（1978）「韓国人に対する日本語教育」日本語教育 35号
- 金永佑（1977）「韓国における日本語教育の現状と問題点」日本語教育 33号
- 祖父江孝男（1990）「韓国人の意識と行動—今日までの諸研究の比較考察」『韓国社会の文化人類学』弘文堂
- 林建彦（1990）「日本人、韓国人、中国人の表現構造比較—D.C.バーンランド教授の日・米比較をベースとして—」行動科学研究 第30号
- 南不二男（1983）「談話の単位」『日本語教育指導書 11 談話の研究と教育 I』国立国語研究所

【付記】

本論は、「日韓交流前後における日本語教育学専攻学生の意識調査」の一部をもとに作成したものです。調査にご協力くださった信州大学人文学部日本語教育学専攻9名の学生の皆さんにこの場を借りて御礼申し上げます。

また、本調査の契機となった「韓国研修旅行」を与えてくださった沖裕子先生、姜錫祐先生、旅行中通訳、渉外に当たってくれた韓国人留学生の関淳奎さん、そして、韓国訪問を快く歓迎くださったカトリック大学校生の皆様に心より御礼申し上げます。（2000年3月）